

恩返し有形

徳山工業高等専門学校
土木建築工学科
海田 辰将 (CA19期)

同窓会執行部役員を仰せつかっております海田です。この度、高城会 HP のコミュニティコンテンツの中で「同窓生によるリレー便り」の先陣を切らせて頂くことになり、多くの先輩方・後輩の皆さんを差し置いてのご指名に恐縮しつつキーボードに向かっている次第です。

さて、平成 21 年 8 月より土木建築工学科教員として母校に戻って参りました。もともと私は高専 4 年次くらいから大学・高専の教職に就くことを強く志望しており、その念願が人に恵まれたおかげで運よく叶った人間です。これまでに、大学院を修了してから高知高専で 3 年半、愛媛大学で 2 年ほど教鞭を執らせていただきましたが、母校の徳山高専での勤務には、これまでと違った感情があり、仕事をする上での大きな原動力になっています。その 1 番が「母校に恩返ししたい」という気持ちの強いことです。

思い起こせば中学校 3 年生のとき、塾の模試でたまたま志望校に徳山高専と記入してみたところ、コンピュータがはじき出した合格率が消費税率と同じでした。そして、公立高校と受験日が違うという理由だけで高専を受験し、何かのミラクルが起きて入学してしまいました。そんなモチベーションの低かった私がわずか 5 年の高専生活で、専門分野に興味を持ち「教員になる」と明確な目的を持って大学編入の切符を手にしたわけです。また、このような学生を送り出すことが如何に難しく大変な仕事か、現在その身を持って実感しているところです。このことから、私は徳山高専に対して多大な恩義を感じているわけです。

正直言って、授業や主事室業務に加え、クラブ活動、デザコン等課外活動、各種委員会、学生相談など、大学に勤務していた時よりも校務が激増し、なかなか休みや自分の時間がとれない過酷な職業であることは事実です。しかしその分、後輩学生を恩師の先生方と一緒に育てられる喜びと「ものづくりを通じたひとづくり」を行う快感(?)には何物にも替え難い充実感を感じています。

定年退職まで残り 30 年余りしかありません。私にとって徳山高専での勤務 1 年は 1/30 年かもしれませんが、学生にとっては 1/5 年であることを常に頭において、自身を磨くとともに全力で後輩学生を育てることで徳山高専に恩返しさせて頂き、その積み重ねによってやがて徳山高専を日本一の高専にしていきたいと本気で思っています。まずは 14 年後、私の愛娘を入学させたい!と思える学校にしたい・・・。

以上、取り留めもない話になりましたが、まだまだ経験未熟な若輩者につき、恩師や同僚の先生方のスネをかじりながら、また同窓会の皆様にもご助言・ご鞭撻を賜りながら、しっかりと地を掘んで前に進んでいければ幸いです。今後とも末永きお付き合いの程、よろしく願いいたします。

次回のリレー原稿は、ME32 期西村隆志くんにはバトンを渡したいと思っております。

